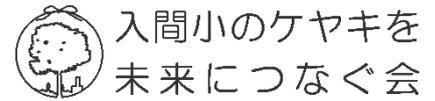


2022年6月12日

報道各位



入間小跡地のケヤキ保存に向けて活動を開始

— 概要 —

- ✓ 市民団体「入間小のケヤキを未来につなぐ会」を立ち上げ
- ✓ 市長に入間小跡地のケヤキと複合商業施設との共存に向け、イオンとの協議を要請
- ✓ 市民向けにオンライン署名を開始

私たち入曽地区住民の有志は5月29日、**入間小学校跡地のケヤキ（ケヤキ）とイオンそよら入曽（イオン）との共存を実現するため**、市民団体「入間小のケヤキを未来につなぐ会」（代表 福住勇矢）を立ち上げました。5月30日に**狭山市長への要請書（別紙参照）を提出し**、市の関係部局への事実確認や市議会への働きかけ、有識者への聴き取りを開始しました。市民の意志を集めるために**オンライン署名を開始**しました。今後、既存の市民団体「入曽まちづくりの会」と連携して活動していきます。

入間小のケヤキについて

入曽駅周辺整備事業の一環として、市は入間小跡地に複合商業施設の公募を行いイオンの出店を決定しました。この跡地には**101年前に当時の児童が植樹し、閉校後も大切に残されてきたケヤキの大木**が存在します。ケヤキの現位置での存続要望は整備事業のパブリックコメントでも多数寄せられました。市は、**公募の際にケヤキを残したいという事業者が複数あったにもかかわらず、すべての事業者に伐根を求めました**。決定したイオンはこの条件に縛られており、敷地引き渡し（当初6月1日の予定が、他の事情で協議中のため期日未定）後、**いつ伐根されてもおかしくありません**。



ケヤキの店舗への影響について

ケヤキは移植や挿し木をするには問題がありましたが、そのまま残すことについて、**市は樹木医の診断など十分な検討を行っていません**。私たちの有識者への聴き取りでは、少なくとも外観からは大きな問題は見つかっていません。市は維持管理の問題も挙げていますが、私たちの調査では、イオンの別の店舗で「**地域の住民に喜んでもらえるように**」**地域の名木をほぼ自己負担で管理**していたり（イオンモール東久留米）、約



50本の既存樹木を積極的に保存し施設の景観づくりに活用している（イオンモール多摩平の森）などの事例がわかり、市とイオンの協議次第でケヤキと店舗との共存が可能です。

市の不誠実な対応

市はケヤキを現位置で残せない理由について複合商業施設の誘致に不利であることしか挙げていません。複合商業施設公募時の質問ではむしろ保存したいと表明した事業者が複数あり、必ずしも誘致の不利にはならないことが判明しました。したがって、ケヤキが現位置で保存できない理由は消失しました。しかしながら、市は募集要項を変更しないまま公募を続け、事業者に決定したイオンに伐根を求めています。市民からは保存の要望が多く、市長自らも「入間小跡地に今も残るケヤキを何とか残したいと思ったのは地域の皆さんや私だけではないでしょう。」と広報媒体でコメントしています（One for All 市長が走る！ 2022年5月10日掲載）。状況に応じて事業を見直さない市の対応は、市民に対して不誠実です。

オンライン署名について

同校卒業生や市民からの声を集め、市の条件変更や市議会での調査を後押しするため、オンライン署名サイト「Change.org」で「未来へつなごう！入曽の歴史 まちのシンボル 旧入間小のケヤキとイオンの共存を求めて」というキャンペーンを実施しています。

URL：<https://www.change.org/keyakinomirai/>

The screenshot shows the Change.org campaign page. At the top, there's a navigation bar with 'change.org' and links for 'Campaigns', 'My Page', 'Campaigns List', and 'Member Program'. Below that, a yellow banner contains a disclaimer about COVID-19 information. The main heading reads '未来へつなごう！入曽の歴史 まちのシンボル 旧入間小のケヤキとイオンの共存を求めて'. A central image shows a tree and text: '共存可能という会社も複数ありました。未来へつなごう！入曽の歴史 まちのシンボル 旧入間小のケヤキとイオンの共存を求めて'. To the right, a progress bar indicates '22人が賛同しました。もう少しで100人に到達します！'. Below the progress bar, it says '100の賛同で、このキャンペーンはページ上のおすすりに表示される可能性があります！'. There are buttons for 'Facebookでシェア' and '友達にEメールを送信'. At the bottom, it lists the initiator: '発信者：入間小のケヤキを未来につなぐ会' and the target: '宛先：小谷野剛 様（狭山市長）、1人の票の預託'.

Change.org のキャンペーンページの一部



この件に関する
お問い合わせ先

電話 050-3635-1920（代表 福住）

Eメール keyakinomirai1920@gmail.com

オンライン署名サイト（<https://www.change.org/keyakinomirai/>）はこちら▶



2022年5月30日

狭山市長 小谷野剛様

入間小のケヤキを未来につなぐ会

代表 福住勇矢

事務局

電話

入間小学校跡地のケヤキ伐根中止を求める要請

今年も入間小学校のケヤキが碧々と生い茂る季節となりました。狭山市長におかれましては、市民に寄り添い共に乗り越えていく市政運営に日々ご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、入間小学校跡地利活用事業の計画に沿って、事業用地のイオンリテール株式会社（以下、イオンと称する）への引き渡しが進んでいることと認識しています。同事業では、入間小学校のケヤキの立ち木（以下、ケヤキと称する）が事業者の責任において伐根処分されることになっています。しかし、すでにご承知の通り、ケヤキの伐根については同校卒業生や市民から反対の意見が出されていました。私たちも一市民として意見を発信し、これまで事業関係者の動きを注視して参りました。しかしながら、事業者への用地引き渡しが近づく今でも依然として多くの市民がケヤキの保存や現状での活用を要望しており、さらには伐根に対する疑問の声が増していることに気づかされました。それどころか、ケヤキの処遇を知らない市民や残されると誤解している市民が一定数いることもわかってきました。これらの民意を狭山市が正確に把握できているのか、私たちは疑問に感じています。民意を捉え切れていない事業推進が住民感情を損ね、伸びしろのある入曽のまちづくりを取り返しのつかない結末に導くのではないかと、強く懸念しています。

このような問題意識の下、私たち市民の有志が集まって「入間小のケヤキを未来につなぐ会」を立ち上げました。伐根まで時間が限られる中ではありますが、無視できない市民の想いの数々を私たちが受け止め、確実に事業に反映されるようこの問題に取り組んで参ります。私たちは市民の代弁者であり信頼される行動者でありたいと、固く決意しました。何より私たちも、ケヤキが今のまま残ることを切に願っています。

私たちは狭山市に対して下記の内容を強く要請します。よろしくご配慮賜りますよう、お願いいたします。

記

【要請の内容】

1. イオンに対して、ケヤキの伐根処分の手続き中断を今すぐに申し入れること。
2. ケヤキの伐根中止と現位置での保存・活用を前提に、複合商業施設的设计変更やケヤキ

の管理方法等についてイオンとの協議を開始すること。

【要請の理由】

1. **（市民の意見と計画の周知不足）** ケヤキを残してほしいとの意見が「入曽駅周辺整備事業基本計画（案）に関するパブリックコメント」でも複数件寄せられています。私たちが街頭や戸別訪問で実施した市民への聴き取りでも現位置での保存や活用を希望する意見が大勢を占めています。一方で、広報などケヤキの伐根を伝える市の周知は不十分です。伐根の計画を知らない人が非常に多く（同 聴き取りに基づく）、この計画に反対の意見を表明する機会が失われており公正さを欠いています。このように、民意を正しく反映していない事業の推進は、正当性に疑問符が付きます。
2. **（歴史の象徴）** ケヤキは当地への植樹から 100 年以上が経っています。入間尋常小学校（入間小学校の前身）の記念樹として当時の校長が着想し、4 人の児童が一所懸命に近くの山から担いできた逸話は、大正 9 年（1920 年）当時の入曽の風景や住民の人柄を物語っています。その後、太平洋戦争・高度経済成長・少子化の時代を経て大木に育ったケヤキは、入間小学校の敷地内に留まらず入曽の町の歴史と人々の記憶に深く刻まれています。このように、ケヤキは入曽 100 余年の証となる名木です。狭山市緑の基本計画によれば、古くから町の象徴として親しまれている名木は保全される十分な理由があります。
3. **（豊かな市民生活と魅力ある景観）** 市街地の緑は豊かな市民生活になくしてはならない存在です。緑は人々の心に安らぎや充足感を与え、日々の暮らしを豊かにしてくれます。生活する傍らで緑とふれあい自然の息吹を感じることは、健康で潤いのある生活環境を創造するうえでかけがえのないことです。市街地における緑はまさに潤いを与え、個性的で魅力ある景観を創り出します。大木は都市の美観を維持します。これらは狭山市緑の基本計画にも謳われていることです。今あるケヤキの保存と活用は、市民の心や暮らしを豊かにし入曽の町の景観に魅力を与えるための最良の方法です。
4. **（シビックプライドに基づくまちづくり）** 入曽の町にある 40 年来の課題を解決し、未来を見据えて魅力あるまちづくりを推進するためには、行政だけでなく市民の主体的な参加が不可欠です。市民生活に溶け込んだケヤキが歴史を語り町に潤いや魅力をもたらすことは、市民に入曽の町への愛着や誇りを醸成します。ケヤキが町と市民をつなぐことで町への関心を高め、入曽のまちづくりへの市民参加を促します。このようなシビックプライド（都市に対する市民の誇り）に基づくまちづくりは市民の誇りをさらに高め、まちづくりに好循環を生み出します。行政主導のまちづくりとは異なり、入曽において魅力と活力ある持続可能なまちづくりを実現します。

以上

※連絡先変更のため、旧情報は伏せさせていただきました。

添付資料

ケヤキに関する質問予定市議と要旨

狭山市議会令和4年第2回(6月)定例会において、入間小学校跡地のケヤキについて質問予定の市議と、関連する入曽駅周辺整備事業について質問予定の市議を抜き出し、質問要旨をまとめた。狭山市議会WEBサイトを基に入間小のケヤキを未来につなぐ会が作成。

13日 三浦和也議員(会派 改進)

1. 入曽駅周辺整備事業
(3)地域への説明について

【1】入間小学校跡地のケヤキの取扱いについて、地域への説明は行ってきたか。

13日 猪股嘉直(会派 日本共産党)

1. 入曽駅周辺整備事業

14日 田中寿夫(会派 市民派無所属)

3. 入曽駅周辺整備事業
(1)議会答弁の検証

【1】大ケヤキ伐根処分の庁内合意はいつだったのか。

定例会日程

日にち	会派	質問者
6月13日	日本共産党	大沢えみ子議員
	新政みらい	内藤光雄議員
	はつらつ創造	金子広和議員
	改進	三浦和也議員
	日本共産党	猪股嘉直議員
6月14日	市民派無所属	田中寿夫議員
	自由民主党	千葉良秋議員
	日本共産党	衣川千代子議員
	改進	福田正議員
	公明党	綿貫伸子議員
6月15日	公明党	加賀谷勉議員
	市民派無所属	高橋ブラクソン久美子議員
	はつらつ創造	西塚和音議員
	改進	笹本英輔議員

添付資料

WEB フォームからイオンに問い合わせた

そよら入曽のケヤキに関する回答メール

Subject: イオンへの Web 問い合わせ【No- [REDACTED]】

From: cs_aeon@aeonpeople.biz

Date: 2022/05/25 17:21

To: [REDACTED]

フクズミ ユウヤ さま

この度は、新規店舗につきましてお申し出をいただき、誠にありがとうございます。早速、担当部署にお申し出になられた内容を伝えました。

「この度は、新規店舗に関するご意見をいただき、ありがとうございます。お返事が遅くなり申し訳ございません。お客さまからいただいたご意見ご要望の件数についてのお問い合わせでございますが、開示はいたしておりません。大変恐れ入りますが、ご理解いただければと存じます。今回の新規店舗計画地に関しましては、狭山市より、ケヤキの移植は難しく、移植しても根付く保証はできないことから、樹木自体は伐採するという事前説明を受けております。伐採後の木材を使った加工品の作成等により、地域に貢献できるご提案をすることを前提とし、事業者募集に参加いたしました。また、**狭山市から弊社に対し、樹木を残すことについて申し入れはございませんでした。**地域の皆さまからのお申出は存じ上げておりますが、**樹木についてはお答えできる立場ではないと考えております。**ご了承いただきますようお願い申し上げます。なお、今後ケヤキに関するご意見・お問い合わせにつきましては、**狭山市へお申し出いただきますようお願いいたします。**新規店舗が、より良い店舗になるよう、取り組んでまいります。イオンリテール株式会社 開発部 野上 』

これからも、イオングループをご利用くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

イオン お客様サービス部 メール担当：前田・樋口

※このメールに返信される際は、下記の部分を変更あるいは削除せずに返信してください。

[REDACTED]

※下線やマーカーは「入間小のケヤキを未来につなぐ会」で追加したもの。下線部は、「フクズミ」以外の他の人への回答にも共通している部分。個人情報や問い合わせメールの識別番号は黒塗りで伏せた。

添付資料

入曽駅周辺整備事業基本計画案に関するパブリックコメントの結果

1 パブリックコメントの実施概要

(1) 目的

入曽駅周辺整備事業基本計画（案）について、市民等から幅広い意見を募集するため

(2) 閲覧期間・意見募集期間

平成30年2月13日（火）から平成30年3月9日（金）

(3) 意見提出の対象者

- ・市内在住・在勤・在学の方、市内に事務所・事業所を有する方
- ・狭山市税の納税義務者、基本計画（案）に関する利害関係者

(4) 公表した資料

入曽駅周辺整備事業基本計画（案）

2 意見の提出状況

(1) 意見提出者数 62名

狭山市HP専用フォーム 25名、持参 15名、電子メール 11名
FAX 8名、郵送 3名

(2) 意見者の関係

市内在住 58名（内入曽地区53名）、市内在勤 1名、市内に事業所 2名、
入曽駅周辺整備事業基本計画（案）に関する利害関係者 1名

3 寄せられたご意見と市の考え方（別紙参照）

意見数	204件
東西自由通路・橋上駅舎に関するもの	46
駅前広場・道路に関するもの	57
入間小学校の跡地利用に関するもの	43
その他	58

※お寄せいただいた意見は原文のままの記載を基本とし、特定の事業所・店舗名等の固有名称は添付図に表記する等、表現をかえています。

（なお、匿名の意見は受付しておりません）

※添付していただいた、図については図中の文字のみを意見として表記しています。

計画へのご意見と市の考え方

分類	寄せられたご意見	意見に対する市の考え方
小学校跡地利用 7	<p>具体的要望 ・入曽地区活性化とコミュニティの拠点作り 入曽地区、特に駅周辺の活性化を目標とした整備事業には多くの地域住民が集散するコミュニティの拠点作りが不可欠。お金を使う商業施設の新設だけでは、平均所得順位がそれほど高くない住民にとってそれほどの人の集散は期待できないでしょう。住民が求めているのは住民の多用化したライフパターンに役立ちなお、人と人が自然に触れ合い、生きがいをもって安全に生活できる生活環境ではないでしょうか。役所の皆さんも仕事を離れ一人、一住民として考えてください。子供さんがいらっしやれば、子ども達の将来ことを考えるでしょう。人並、いや人並以上に教育をつけ安定した仕事に就き健康でいて欲しい。グローバル化した世界に役立つ仕事をして欲しいと考える方もおられるでしょう。また、リタイヤしたご両親のことを心配される方も、健康維持のため、何か仕事でもすればいいのに、しかし、この町には高齢者対象の仕事が少なく、趣味にでも生きがいを見つけてくれればと考える方も少なくありません。 子供に英会話を習わせたい、やっと見つけた新しい友人とたまに一杯、と思っても全て全てお金がかかります。これだけ国際化が一般的になった日本もこの町は鎖国状態近い現状です。 高齢化進行し、医療費の増大で健康保険もバク状態、いろいろな分野で活躍してきた住民も宝の持ち腐れ状態。 これらの高齢者の方々を活用し、住民に喜ばれる安価で利用できるコミュニケーション促進事業、将来を担ってくれる子ども達の社会教育など、市民による市民のためのボランティア事業の実現のため、廃校になった入間中学校の再利用を提案しております。 公民館が旧入間小学校のグラウンドに移設されます。これまで以上に住民に役立つ機能を完備されることと存じます。しかし、住民の求める日常生活に不可欠なコミュニケーション促進機能は十分に果たせないと思います。 小学校跡地の新しい商業施設、わずか200メートル離れた中学校跡地の公民館、そして安価に利用できる住民による住民のための様々なコミュニティ施設。これらがコラボレートしはじめて入曽地区のコミュニティ拠点となり、問題を掲げる駅正面の街路及びその南側地区整備の糸口となると思います。 ご検討のほどよろしくご願ひ申し上げます。</p>	<p>公共施設の整備につきましては、市では将来のまちづくりを見据えて公共施設等の適正な配置を図っていくため、改修・建替え・統廃合などを計画的に進めており、そうした中で現在のところ、入間小学校跡地に新たに公共施設を作る計画はありません。本事業において入間小学校跡地については民間事業者を公募し、参画希望があった事業者に対しプロポーザル方式等による審査を行っていくことを予定しており、ご提案いただいた内容については民間事業者の募集・選定の際の参考にさせていただきます。また、入間中学校跡地には公共施設として入曽地区地域交流施設(仮称)等の整備を予定しており、ご意見の中の入間中学校跡地の利活用に対するご提案については、まちづくりを行う上で参考にさせていただきます。</p>
	<p>・この計画図に公共施設が一つもないのはなぜか。公共施設はコミュニティーのシンボルであり、人と人の交流の場である。ここに公共施設を置かない理由が明確でないのは納得できない。</p>	<p>公共施設の整備につきましては、市では将来のまちづくりを見据えて公共施設等の適正な配置を図っていくため、改修・建替え・統廃合などを計画的に進めており、そうした中で現在のところ、入間小学校跡地に新たに公共施設を作る計画はありません。</p>
	<p>・狭山市都市計画マスタープランにある「商業機能等の整備・充実」とは小学校跡地に「商業系企業の誘致」だけで現在の駅前市道沿い商店街について触れられていません。本計画立案に当たって駅周辺事業者の意見・要望をどう集約し検討したのかお示しください。</p>	<p>駅周辺で商店を経営している方の意見につきましては、それぞれの商店が加入している自治会を対象とした説明会等において、商店経営者からは、本事業に対して賛成と反対、双方の意見が寄せられましたが、概ね、本事業に賛成する意見等を多くいただきました。いただいたご意見は、内容を検討し、必要なものについては詳細な計画を作成する上で、参考にさせていただきます。</p>
	<p>・民間活力を活用した「公募型プロポーザル」で入間小学校跡地の利活用を進めるとあります。民間活力の主体は市内の企業を優先しているのでしょうか。また、説明ではスーパーマーケット業態からの出店希望があるとのことでしたが、狭山市総合計画(地域経済活動の特性を踏まえた地域拠点と市街地形成/商業・業務地の拡充)との関係ではどのような施設を想定しているのでしょうか。</p>	<p>民間事業者の募集については市内外問わず募集を行う予定であります。また誘致を行う施設は出店希望が多かった複合型の商業施設を想定しており、狭山市総合計画にも即したものと考えております。</p>
小学校跡地のケヤキの木 1	<p>意見 ケヤキに広い広い居場所を残してください。 1ページ 入間小に現在ある大ケヤキを切らないでください、移植もしないでください。踏切2近くの「スーパーマーケット1」にある、みじめな姿の大イチョウと併せて樹が根や枝を伸ばすための十分以上のスペースを樹に与えてください。樹はそこを通る人、見る人に安らぎを与えてくれるはずです。 入間川駅西口再開発では入間川小学校に有った大樹は切られ、狭いところに移植され最後は切られたものがほとんどだった様に思われます。近くにあった大イチョウも切られてしまいました。建設の邪魔になるなら計画を変えれば良いのです。計画前に樹はあったのですから。移植は樹を大切にしているふりをしているだけで、樹のためになにも良いことはありません。 たかだか百年しか生きない人間の都合で何百年も生き、これからも生きていく樹の居場所を変えるのは、人間本位の行動であり、心の豊かさを感じられません。樹は大切にすべきだと思います。意図的に樹を残して、百年後千年後の子孫に伝えたいと思います。</p> <p>入間小学校がなくなってしまったことは、非常に寂しい。入間小のシンボル「けやき」を保存し、「文具店1」側から駅前ロータリーにつなぐ</p> <p>説明会で質問のあった入間小跡地の「ケヤキ」は、移植の計画をしているとの回答でしたが、移設したらすぐ枯れるでしょう。現在の場所にもそのまま残し、その周囲を休憩場所にするなどの工夫をした方が、費用もかからず良いと思います。</p>	<p>小学校跡地に現存するケヤキの木は現位置に存置した場合、有効な土地利用が図れないことが予測できますが、取扱いについては調査・研究しております。</p>

計画へのご意見と市の考え方

分類	寄せられたご意見	意見に対する市の考え方
ケヤキ校跡地 2	<p>「3. 土地利用計画図(案)」について(3ページ)道路の安全に関する項目 図中6)について ○旧入間小のシンボルのケヤキを残すべきである ・計画図案では永く旧入間小のシンボルとして親しまれてきたケヤキの木が位置付けられていないが、どう活かすのか計画にも明記すべきである。</p> <p>入間小学校校庭のケヤキの木ですが、移設しなおかつ巧いかなかったらその子孫を残すように計画しているとの説明を聞きました。私も昭和28年に一年生から見てきましたが、今となってはその学校もなく特段の思いもありません。学校を壊す時もいろいろ意見があったけど当時の方は皆さん高齢化し、今更ケヤキの木を見ても癒されることは少ないと思います。移設費用、これからの管理費、開発の妨げ等を考えると、思い切つて伐採してもいいと思います。そのケヤキの木がのちに入管地区のシンボリックになるとは思えませんので、住民の方のアンケートに具体的な費用等を示してその可否を決定しても遅くないと思います。</p>	(同上)
駅周辺の活性化	<p>民間活力を生かすことは大切であるが、駅周辺の活性化には、安全に歩ける道路をつくる必要があり、さらに、きれいで魅力的な街の環境を整える様々な取り組みをすることが不可欠であり、今回の提案内容で駅周辺の活性化が図られるのか。</p> <p>今回の提案について、将来への道筋についてなど、周辺で営業されている方との協議がされているのか。</p> <p>駅前商店はここ数年で大きく減少したことに伴い、以前は多くみられた自転車道まではみ出す姿はみられなくなりました。入間小跡地に民間施設誘致を図ったとしても改札が移動してしまえば駅前という立地を失った正面通りのテナントが撤退し更に衰退してしまうのではないのでしょうか。</p> <p>・橋上駅舎ができ現駅舎が廃止された場合、この駅舎から現駅舎まで及び現駅舎から区画道路まで、どのようにして人の流れを作ろうとしているのか。</p>	<p>駅周辺の活性化につきましては、本事業の整備により駅周辺の回遊性を促進するとともに、小学校跡地に新たな機能を導入することにより、駅周辺の活性化が期待できると考えております。</p> <p>駅周辺で商店を営んでいる方の意見につきましては、それぞれの商店が加入している自治会を対象とした説明会等において、商店経営者からは、本事業に対して賛成と反対、双方の意見が寄せられましたが、概ね、本事業に賛成する意見等を多くいただきました。いただいたご意見は、内容を検討し、必要なものについては詳細な計画を作成する上で、参考にさせていただきます。</p> <p>東西自由通路やアクセス道路の整備及び複合型商業施設の立地により、駅周辺の回遊性を促進し、このことにより商店街に対しても相乗効果が期待できると考えております。</p> <p>人の動線が変わることにつきましては、東西自由通路やアクセス道路の整備及び複合型商業施設の立地により、駅周辺の回遊性の促進が期待できると考えております。</p>
雨水処理	<p>小学校跡地の調整池は地下構造ですね。点線矢印だけが取り入れ口ではありませんよね</p>	<p>いただきました内容は平成25年度に策定した入間小学校跡地利用計画についてのご意見かと思われませんが、本計画による入間小学校跡地の雨水処理については、進出する民間事業者が整備することから、雨水処理施設の構造については、県条例に基づき進出する事業者が計画することになります。なお、平成25年度策定の入間小学校跡地利用計画は、本計画の策定にあわせて計画を置き換えます。</p>
その他 1	<p>東口、西口の名称を北口、南口に変更していただきたい。 昨年、初めて入管駅を降りる人と待ち合わせした際、東と西を間違えタイムロスしてしまっ。一般的に判り易い、北口、南口に変更すべきだと思います。ご検討ください。</p> <p>入管駅周辺の整備の意見の募集について、広報さやまにて見ました 整備や開発等には関係のない意見になってしまうのですが、自分は「入管」という地名に対して、発音なのかどうかはわかりませんが、良いイメージも悪いイメージもないのですが、悪く言えば「ただの場所」というような感じがしてしまいます。 そこで、狭山市ではなく、西武鉄道側の問題になってしまうのですが、せめて駅名を変えた方が良いと思います。 住所は問題ないのですが、駅名自体が良いイメージがないと、そこに詳しくない人にまで「何もない、行こうとは思わない」というようになってしまおうと思います。 自分としては、西狭山駅 もしくは 水野駅 が思い浮かんだのですが、せめて入管という名前だけは変えた方が良くと思います 一個人の開発や整備に何も関係のない意見ですが、読んで頂ければ幸いです。 長文、失礼致しました。</p>	<p>入管駅の東西出入口の名称については、長きにわたり地域の皆様に使用され、十分馴染んでいるものと思われるため、出入口名を変更することは考えておりません。</p> <p>入管駅の名称については、長きにわたり地域の皆様に使用され、十分馴染んでいるものと思われるため、駅名を変更することは考えておりません。</p>

添付資料

けやきのつぶやき（入間小学校記念樹）

私は大正九年十月、この学校が入間尋常高等小学校と呼ばれ、校舎の増築が行われた時、中入曾出身の島崎寿郎校長さんの着想により記念樹として植えられました。校長さんは、教え子の中から特に元氣者だった権現堂の新七ちゃん（新井七郎さん）、角の政ちゃん（宮野政吉さん）、高見の宗ちゃん（宮野宗次郎さん）、丸大の一衛ちゃん（新井一衛さん）の四人を呼び寄せて、「学校の記念樹になるような木をどこかで見つけてくれないか」と頼みました。

その頃、村にはたくさん同姓の家々があり、名前の上に屋号を付けて呼び合い、屋号の下に名前がつくのが普通のように思われ、それが自然に大人となってもその呼び名が使われていたものでした。

北入曾常泉寺の寺街道沿いに、いつごろか権現様が祀ってあった関係なのか、そのあたりの家々の呼び名の上に必ずといって権現がつき、権現堂の誰々さんというように新井七郎さんも、権現堂の新七ちゃんと呼ばれていました。四つ角に家があることで宮野政吉さんは、角の政ちゃんと呼ばれ、宮野宗次郎さんも又、北入曾で一番高い所に家があり、前も隣も宮野性であったので自然に高見の家と呼ばれ、子供たちは高みの宗ちゃんと呼びあって遊んでいました。新井一衛さんは、ご先祖の新井代助爺さんが明治の初め頃、代助の代を大きくと願いを込めて、大にかえて丸の中に入れた丸大という屋号で仕事をしていたので、誰ということなく丸大の一衛ちゃんと呼ぶようになり、いまでも大人の会話の中に時折耳にすることがあります。その四人は喜んで、半兵衛山（現入間基地内の昔の山林の呼び名）道沿い近くの汽車道を抜け、丸大の山を目指して飛んで行きました。

いがぐり頭の小さな四人は、「あれはどうか」と、山中をかけずり廻って探しているうちに、新七ちゃんが、私を指差しながら「このけやきはどうかなあ」といいました。

みんなも賛成、さっそく私は掘り出され、四人にかつがれて一路学校へといそぎました。私を見た校長さんはお喜び、そして増築校舎の敷地用に土を取った時の大きな穴のそばに、私は植えられました。その時の私は、背丈が約三メートル、太さは湯のみ茶碗ぐらいの子供でした。

あたりを見渡すと、北がわにガラス窓の校舎があり、所沢街道に平行して剣道場と農業教室があり、教室のうらがわから街道まで広い生徒たちの農業実習地が、お寺の山門を背景に広がっていました。

私は一人ぼっちになった淋しきで、幾度か涙を流すこともありましたが、いつのまにか元気な子供たちの歓声に元氣づけられました。

それに春ともなれば、金剛院の山門付近には見事な桜が咲き、秋を迎えると獅子舞の美しい笛の音色が聞こえ、私を励ましてくれました。

年を経るうちに、自分でも驚くほど大きくなり、子供たちは木登りをしたり、私を囲んで

遊技をしたり恰好の遊び相手となって、一緒に暮らす楽しい日々となりました。時には、卒業生たちが訪れて、私に話し掛けたりしてくれるようになりました。子供たちが病氣や怪我で休んだりすると心配になったり、大正十二年の関東大地震では、校舎が壊れるのではないかと驚いたり、長い間にはいろいろなことがありました。

なかでも、私はあの太平洋戦争の悲惨な出来事は今でも忘れることができません。この学校からも大勢の卒業生が戦地へと出陣していまだ帰らぬ卒業生もいます。ことに昭和二十年七月十日の空襲では、小久保好藏校長先生（川越在山田村出身）が校舎の玄関を出たところで弾に当たって亡くなされました。この大きな犠牲と悲しみは、今も深く心に焼きついて離れません。只、ひたすら手を合わせるのみです。

私がこの地に根をおろして七十余年。島崎先生をはじめ元氣者だったあの四人の生徒さんも、すでに今は他界されてしまいました。「ご冥福を祈ります」

私をここまで育ててくれた歴代の先生方や地域のみなさん、仲良しになったみなさんに感謝しながら、この大地にしっかりと根をはり、元氣な子供たちやみなさんの幸せを永久に見守っていきます。

みなさん　いつまでも私を可愛がってください

平成三年八月十五日

※この詩は、入曽地域交流センターに掲示されている『けやきのつぶやき』（新井太郎作）を入間小のケヤキを未来につなぐ会の責任で紙資料に打ち直したものです。

添付資料

入間川の水遊び



信濃
不老山
園

狭山市入間地区郷土愛護会

二十四、小学校櫓のひとりごと

明治六年（一八七三）北入曾村田口保明家に入曾学校が創立開校され、水野村には逃水学校が入曾学校の分校として金剛院内に開校された。北入曾村入曾学校は翌年常泉寺に移転した。明治一八年常泉寺が火災のため焼失、入曾学校は下新田の持田歌五郎家に移転し、其の後南入曾村金剛院に移り明治二十二年（一八八九）初代村長に関口文吉就任と共に明治六年（一八八六）の小学校令による入曾小学校は人間尋常小学校と改称される。其の後人間尋常小学校として現在地に校舎を建築、明治三十三年（一九〇〇）村をあげての新校舎落成記念式典が挙行された。その時大変な出来事が起きた。桜の花の校舎落成記念にと山王様より記念樹として校庭まん中に山桜の大樹を移植し村民は開校に祝砲上げて祝った。空には祝砲火花、校庭では人々の歓声の中に式典が挙行されていた。その頃不老川沿いの北入曾では大変な出来事がふって湧いたように起きていた。川土手の仲川家（現井戸端園）の茅葺屋根に春風のいたずらか祝砲火花の火

の粉が落下して火災になった。人々は祝賀会どころでなく、歓声とどよめきの中に進行した行事もふって湧いたこの突然の出来事に今までの感動も一瞬のうちに、春の嵐に似て消えていった事だろうか。そんな出来事の話し校庭に其の後私がここに運びこまれて植えられた。大正末期今だにおぼえているのは、校舎土台の基礎工事に使用するために校庭東すみに掘られた穴場近くに北入曾◎さんの畠から坊主頭の四人の子の肩にかつがれて来て穴場近くに植えられあれから私も大正、昭和、平成と学校行事の多い中に子供あいての毎日で年輪などがぞえているひまもなく、今日まで忘れていた、当時の校庭といっても校舎の前を西南に一周一〇〇米の小さなグラウンドが走り真中に山王様から移植した山桜の大樹が植えられていて当時の開校祝賀行事の様子を知るものとて丸太捧への古い校舎とあの移植された古木山桜のみで校庭すみの私の小さな存在など村人や子供達には忘れられていて、いつも祝賀会行事の話や花火火災の話代で校庭の山

桜の方がいつも主役的存在でもあった。その頃の私の隣りには剣道場と隣接して農業実習教室と用具室の古い校舎が背中を県道にむけて西むきに建てられていて県道沿いには寺の山門を背景にして子供達の農業の実習地が開けていた。

山門前畠から風上げ街道沿いの逃水里に水野村の広い畠地が山ぎわまで開けていた。昭和の中頃になると剣道場と隣接の農業実習教室と用具室の古い校舎はその後児童増加に伴い東側から校庭の西側隅に震災時を追想する丸太で支えられている古い校舎の角に移動され校庭のシンボル樹山桜の古木も取りのぞかれてその頃としては広い運動場が県道沿いまで拡張された。

私はこれまでとちがってこれからは広い校庭の主役としていっそう子供達を大切に見守って行きたいそんな想いから八〇余年、今では幹も太く小枝も繁り夕日が沈む頃などはいつも県道沿いの校門あたりまで私の長い木影が正門前の文具店、店先までのびていつも店先をのぞきこむようにして主に話しかけるのが天気の良い日は日課のように楽しみだった。そんな日課の平成の新しい陽の中に店の主の髪も近頃はめっきり白く白く時の流れが知られる。主の言葉にはここに店を構えて六〇余年

とか苦節への思いを一途には語られずとも、髪の色の中にも伺い知れぬ思いがしてならないような気がする平成三年春、校長室に於て相沢校長さんとPTA役員設楽さん、牛窪さん、高橋さん、豊田さん、河村さん、とあの頃拵着に坊主頭でこの私を北入曾から肩にかついでこの学校まで運んで植えてくれたあの四人の子供達の御家族、新井太郎、新井嘉一、宮野豊、宮野豊二さんによってみなさんにいつまでも大切に保存して戴くよう私の傍らに平成三年（一九九一）七月二十八日標示板が設置された。大変有難く思っている。

坊主頭の肩にかつがれて来て

校庭すみに植えて下さった

あの子等も今年九〇才

齊藤勝治先生と同級生とか

私も今年樹齢九〇歳

校庭げやき

（新井太郎）

